

集めて・送って・役に立つ！～収集ボランティアのススメ～

「何かボランティアをしたい！と思っけていても、時間がなくて…」という方もいるのではないのでしょうか。そんな場合におススメしたいのが収集ボランティアです。自分では必要のないものでも、集めて送ることで福祉のために役立ちます。市内・県内にある送り先の一例をご紹介します。



アルミ缶



集まったアルミ缶は市内のボランティア団体に活用していただいています。四ツ葉の会は世界の子どもを医療で支援するチョコ募金に、地域サロンのじこは活動資金に役立っています。ボランティアセンターまで持ってきていただければ、各団体に連絡を取り、持ち帰ってまいります。

※プルタブではなく、アルミ缶本体をお持ちください。また、中身が残っていると臭いや虫の原因となりますので、中をすすいでください。

※缶は潰しておいたほうが集めやすいです。

<連絡先> 中津市ボランティア・市民活動センター ☎0979-23-2095

書き損じ葉書 未使用葉書

大分県聴覚障害者センターでは、書き損じ葉書や未使用葉書の回収箱を設置しています。集められた葉書は聴覚障がい者の福祉向上に役立てられています。

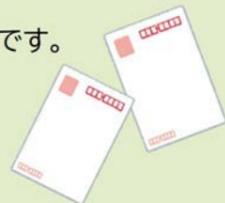
郵送・持参のどちらでもOKです。

<連絡先>

〒871-0907

大分市大津町1-9-5

大分県聴覚障害者センター「書き損じハガキ」宛 ☎097-551-2152



使用済み切手

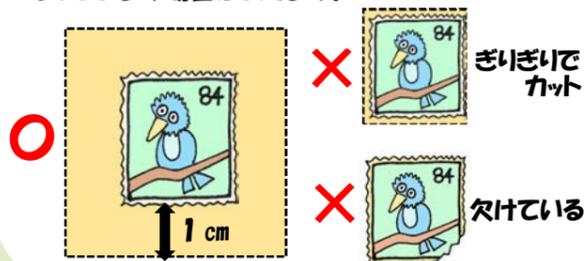
中津市ボランティア・市民活動センターでは、使用済みの切手を集めて大分県盲人協会(大分市)に送り、会の運営費に充てていただいています。

皆さんからお預かりした切手が、ある程度集まったら郵送しています。ご協力いただける方はセンターまでお持ちになってください。

<連絡先> 中津市ボランティア・市民活動センター ☎0979-23-2095

<注意！> 切手の切り取り方

切手はまわりを1センチくらい大きめに切り取ってください。ぎざぎざにカットされていると、価値がなくなってしまう場合があります。



編集後記 秋と言えば、柿！私は柿が大好き♡です。

我が家にずっとある大きな柿の木！私が子供の頃は祖母や父が干したりあおし柿にしたりしていましたが、いつの頃からか、ただただ、落ちるだけの柿になっていました。それが今年は叔父の手により日の目を浴びることになりました。そうです！！干し柿とあおし柿に変身したのです。何とも言えない甘さでたまらなく美味しいのです。しばらく楽しい日々は続きそうです。 By こっしー



ぺんぎん



No.251

2021年11月発行

え:よしだ みずほ

<<発行>> 中津市ボランティア・市民活動センター (中津市教育福祉センター内)
〒871-0021 大分県中津市沖代町1-1-11 TEL 0979-23-2095 FAX 0979-24-7682
<<ホームページ>> <http://www.nakatsu-s.or.jp/> E-MAIL volunteer01@nakatsu-s.or.jp

みんなで取り組むSDGs ~nicoday 開催! ~

10月31日(日)に中津市教育福祉センターで、「nicoday」を開催しました。「nicoday」は中津市社協が今年初めて行ったイベントで、ふくし×環境×地域をテーマとしたものです。

一品以上の寄付で入場ができ、会場ではトートバッグペイント、フотスポットコーナー、SDGsコーナーなどが設けられました。

今回のイベントではNPO法人水辺に遊ぶ会や東九州龍谷高校SDGs実行委員会(パネル展示)、市内4つの地域サロン(手作り弁当の販売)、中津ボランティアカメラマンの会(写真撮影)など、様々な団体の方にご協力いただきました。



Sustainable Development Goals の略で、「持続可能な開発目標」のこと。貧困・不平等・格差・気候変動による影響など、世界の様々な問題を根本的に解決し、すべての人にとってより良い世界を作るために設定された世界共通の17の目標です。

NPO法人 水辺に遊ぶ会



足利理事長(左)と山守さん

海に生えているアマモ等の藻や海藻は二酸化炭素を吸収する力が強いことで近年注目されており、それらを調査することで温暖化問題に取り組んでいます。中津の海にはカブトガニをはじめ多くの生き物が生息しています。遠ざかってしまった海と人との距離を取り戻し、中津の水辺と人々の暮らしを繋ぎなおすために活動を続けています。

SDGs 13「気候変動に具体的な対策を」

SDGs 14「海の豊かさを守ろう」

クリーンプラザに視察に行き、ゴミについて学習し海辺のごみ拾いをしたりエコレシビとして一つの食材から捨てることなく使い切ることを目標としたりしています。また、ネットワークを活用し、先日の文化祭では珈琲館とタッグを組み模擬店を出しました。循環型社会である人×人、人×モノの繋がりが「ご縁」を大切に、ゴールに向かっていきたいと思ひます。

SDGs 17「パートナーシップで目標を達成しよう」

SDGs 2「飢餓をゼロに」 SDGs 14「海の豊かさを守ろう」

東九州龍谷高校の皆さん



中津ボランティアカメラマンの会の皆さんに館内の撮影をお願いしました。

地域サロンの手作り弁当コーナーはあっという間に完売！

たくさんのご寄付をありがとうございました。



「地域猫支援団体

CHEETAH(チーター)」が誕生!



「地域猫と、そこに暮らす人が、安心して、笑顔で共存していける未来を。」をテーマに掲げ誕生したのがチーターです。リーダーは、地域猫への餌やり賛成派、反対派の双方にとってどうすることが最善なのかを永遠のテーマとして考える(会長)吉崎祐治さん。「地域猫にとっても、解決策として理想的なのは保護猫施設の建設です。しかし、建設費用や飼育スタッフの件費など、運営費がかなり必要になり、実現していくのは難しいです。そこで、誰でもできる第一歩として『地域猫のウンチ拾い』をすることにしました。



代表の吉崎さん(左)と猫田さん

ウンチ拾いから、地域の顔つなぎ(挨拶をかわしたり)、見守り、地域猫の生息状況の調査とデータ化、地域猫譲渡会の開催、命の大切さや動物への優しさを学べる場と広げていきたい。そして、要望があれば周辺住民の庭、敷地内どこへでも伺います!と意欲満々でした。生涯型保護猫シェルター兼ペット防災センターを今後の目標としています。



おめでとうございます!

~令和3年度ボランティア功労者・功労団体表彰~

10月13日に別府ビーコンプラザで、第16回大分県地域福祉推進大会が開催されました。ボランティア功労者・功労団体の表彰式が行われ、中津市からは4つのボランティア団体が表彰されました。



授賞式の様子



「はちどりの会」田上さん(地域サロン)

「場所を貸してくれる方、来てくださっている方、皆さんに感謝しています。家に一人だともりがちになってしまうけれど、サロンに来ると笑顔になれる。作るほうも楽しみながらやっています。賞をいただいたから、また頑張っていこうと思います。」



「たのしみ会」野口さん(いきいきサロン)

「十年以上よく続いたな〜と、改めて思います。昔は地域の集まりごとが多かったけれど、今は集まる機会がなかなかないでしょう。普段からつながりを作っておくと何かあったとき心強いから、男性や若い人にもぜひ会に遊びに来てほしいですね。」



<大分県知事表彰>

○人参クラブ(高瀬)

<大分県社協会長表彰>

○はちどりの会(本耶馬溪町)

<大分県社協会長感謝状>

○たのしみ会(本耶馬溪町)

○八日会(山国町)



子ども達に絵本や本に親んでもらうために

~朝の読み聞かせグループ クレヨン~

芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋...皆さんの“〇〇の秋”は何ですか? この“〇〇の秋”の由来は、一説によると中国の文人が「秋は読書に最適だ!」と詠んだ詩を夏目漱石が小説の中で取り上げたことが始まりだとか。中津市でも、そんな読書の秋にぴったりな「本の読み聞かせ」の活動を行なっているボランティアグループがいくつかあります。今回はその一つ「朝の読み聞かせグループ クレヨン」の活動を紹介します。



朝8時30分から約10分間、各クラスで本を読みます



終わった後は図書室で読んだ本の記録と情報交換



【会員数】

・16名

【活動内容】

・毎週金曜日の朝、小楠小学校の各学年に入り、本の読み聞かせをしています。



会を結成して19年、会員全員仲良く活動を続けています。間の取り方を考えたり、読み方を工夫したりしながら、みんなが本に親しんでくれたらと思いつつ活動しています。子どもが好きな人、本が好きな人、一緒に読んでみませんか?

興味のある方はボランティアセンターまで!!

より充実したボランティア活動をめざして

中津市ボランティア・市民活動センター運営委員会

中津市ボランティア・市民活動センターでは、センターが実施する事業に対して、様々な立場の方からのご意見をいただき、よりよい事業を実現していくために「運営委員会」を設置しています。運営委員はボランティア団体の方や地域団体の方、学識経験者、行政関係者など10名の方が担っています。令和3年度の第1回目は新型コロナウイルス感染対策のため、書面による開催となりました。アンケートで伺った委員の皆さんの意見(想い)を一部紹介します。



身近なボランティア活動の最近の様子について

- コロナ禍の中で活動を躊躇している方もいらっしゃるし、ボランティアを受け入れる側も減少しているように感じる。
- コロナ感染の心配をしながらも、十分に配慮しながら活動が続けられているところもある。

コロナ禍での活動の継続や活性化を図るための工夫について

- 事前の検温、当日の検温、手洗い、距離感の配慮などは、活動中声かけを何度も行なっています
- 人生観を持つことが大切。自分に対して精神的強さを持つための講演をセンターでしてほしい。

ボランティアセンターの事業について

- 人が関わりにくい時こそ情報の力を発揮してほしい。ペンぎんの充実を期待します。

これからのボランティア活動に必要なことについて

- まずはボランティア活動をしている人たちが身近な人たちに声かけをするのが一番いい。今ある縁を大切にしながら新たな縁づくりへとすすめること、それぞれの得意分野や趣味の領域への声かけはボランティアの縁づくりを始めるきっかけになれるかもしれない。

